

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院消化器外科での研修を終えて

金沢医科大学一般・消化器外科学

中村 直彦

研修期間：2018年11月12日～2018年11月30日

研修病院：がん研有明病院 消化器外科

日本臨床外科学会での国内外科研修プログラムにて、上記の期間にがん研有明病院消化器外科にて研修を行ったので報告をする。当研修での目的は、ハイボリュームセンターでの胃癌手術における手術手技、術前術後管理、チーム医療体制を学ぶことである。特に、胃癌に対する腹腔鏡手術を安全かつ適切に行えるよう、当科での胃癌腹腔鏡手術の定型化を目指し研修を行った。

がん研有明病院消化器外科の胃外科チームでの病棟業務では、朝・夕に胃外科に所属する9名のレジデントドクター（医員）に同行し病棟回診を行い、術前・術後管理について見学した。毎週月曜日にはCancer boardが行われ、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、食道外科の1チームから症例報告または臨床データの報告があり、報告について討議が行われた。また、外科内科合同カンファレンスでは手術適応と考えられる症例が消化器内科より提案され、各科専門医からの意見も交え手術適応について協議された。週2回朝8時より行われる術前術後カンファレンスでは各チームからその週の術前・術後症例が提示され、診断、手術適応、術式について検討された。いずれのカンファレンスでもチームを超えて積極的な討議が行われ、特に術前の症例提示では、術前検査結果を元にこれまで集積された臨床データなども参考にしながら、症例に対する適切な治療方針が慎重に検討され決定されていた。

今回の研修期間で約20例の胃手術を見学した。多くは胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術であり、部長である比企先生をはじめとするスタッフの先生方が指導する腹腔鏡手術にて、視野展開、リンパ節郭清、胃切除後の再建などについて研修を受けた。特にリンパ節郭清を安全・適切に行うために定型化された視野展開については学ぶべきことが多く、術者、助手、スコピスト全員が共通認識を持って適切な視野展開を行い手術を進めていく重要性を再認識した。また、膵臓の圧迫による膵液瘻発生の防止のため、膵上縁のリンパ節郭清の際には膵臓を鉗子にて圧迫しないことが徹底されていた点も新たに学んだ点である。われわれは今までガーゼなどを使用し膵臓を尾側背側へ牽引することで視野を確保しリンパ節郭清を行っていたが、がん研有明病院では膵下縁の漿膜や動脈周囲の神経叢の牽引などで視野展開を行い、膵臓を直接圧迫することなくリンパ節郭清を行っていた。膵臓圧迫による膵液の漏出を評価した動物実験結果なども示され、当科でも今後は鉗子による膵圧迫は極力避けていきたいと考えている。また、数例ではあるが胃粘膜化腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術や、進行胃癌に対する開腹胃全摘



研修初日がん研有明病院正面玄関にて

術なども見学を行った。

3週間の研修では手術手技はもちろんのこと、エビデンスに基づいた安全かつ適切な医療を提供するためチームが一塊となり診療を行うことの重要性を学んだ。また、外科治療における新たなエビデンス構築のために、日々データ収集と検討を行っている点にも感銘を受けた。最後に研修に際して御指導頂いた先生方、協力頂いた施設関係者皆様に御礼を申し上げて研修報告書とする。